

SEA TRIAL

# PERFECTING THE CRAFT

## TARGA 46

フィンランドを代表するボートビルダー「BOTNIA MARIN」の「TARGA(タルガ)」シリーズに新たなフラッグシップが誕生した。  
トラディショナルな北欧風のパイロットハウススタイルに、VOLVO PENTA IPS800 をインストール。  
フィンランドにてプレス向けに発表されたばかりの「TARGA 46」を現地からレポートする。  
デビューしたての「TARGA 46」は、フィンボートのプライドに満ちた驚くべきハイパフォーマンスボートだった。

text: Atsushi Nomura photo: Kari Wilén [FINNBOAT], BOTNIA MARIN  
special thanks: BOTNIA MARIN [www.targa.fi](http://www.targa.fi)





## 堅牢なハルに、上質なパイロットハウス、そして IPS800 のハイパフォーマンス 40+ノットで駆け抜ける、バルト海で鍛え上げられた4シーズンボートのパイオニア

2018年6月、フィンランド南西部の町 Nauvo で行われた FINNBOAT Floating Show で、「TARGA (タルガ)」の新たなフラッグシップ「TRAGA 46」がお披露目された。精悍な印象を与える濃紺のハル、明るいチークデッキ、オフホワイトのパイロットハウスが、照りつける初夏の陽射しを浴び、太古の氷河によって形成されたアーキペラゴ (多島海) にそのコントラストが映える。

日本でもすっかりおなじみとなった「TARGA」は、「BOTNIA MARIN (ボートニアマリン)」の主力プレジャーボートブランドだ。BOTNIA MARIN は1976年創業、現在も創業家である Carpelan ファミリーによって経営されている。プレジャーボートの他、フィンランドのコーストガードやレスキュー艇などに使われるプロフェッショナルユースの舟艇も建造しており、フィンランドを代表するボートビルダーの一つと数えられている。

TARGA はデッキ中央にパイロットハウスを配したトラディショナルなウォークアラウンド艇だ。その評価は極めて高く、地元フィンランドはもちろん、多くの輸出先でも人気を博している。年々大型化が進んでおり、その中で登場した新たなフラッグシップが「TRAGA 46」である。

「セールスは特にノルウェー、フランス、米国、日本で安定しています。当社の新製品は、多くの関心を引いており、現在もラインナップを拡大しています」と BOTNIA MARIN の創業者 Johan Carpelan 氏は語る。彼の言うように TARGA は日本にもコンスタントに輸入されている。東京湾奥の海上でも、週末には北欧スタイルのボートを良く見かけるようになった。特に目立つのが、TARGA も含めたフィンボートだ。

\*

「TRAGA 46」は全長 15.11m (艇体長 13.93m)、全幅 3.95m というスペック。従来の最大モデルであった「TRAGA 44」より75cm、全長および



ONE TARGA CAN HANDLE SEVEN SEAS





フラッグシップならではの質感と、アグレッシブな野性味の二面性を併せ持つ「TRAGA 46」。高速時でもIPS特有のタイトターンが可能で、まるでランナバウトのように自然なインサイドバンクを伴いながら小気味よく旋回する。今回のシートリアルでは、平均41ノットという高速性を遺憾なく発揮してくれた。

艇体長が長くなっている。全幅は同じ 3.95m。幅はそのまま全長だけ伸びているが、モールドからまったく新規に開発されたという。

驚いたのはパワートレインだ。従来の「TRAGA 44」ではディーゼルインボード 330馬力～400馬力の2基掛け、またはVOLVO PENTA IPS 370馬力～435馬力の2基掛けが採用されていた。しかし今回の「TRAGA 46」はVOLVO PENTA D8 IPS800(870馬力)を2基掛け。その他、IPS600、さらにIPS1200を2基というモデルもあるそうだ。

BOTNIA MARINによるとIPS800が最もおすすめで、公表最高速度は40ノット/3,100rpm。そしてIPS1200を搭載した場合、「50ノットは出るよ!」とは試乗艇のキャプテンの弁。トラディショナルなスタイル、しかも46フィートというサイズで40ノットというだけでも十分だと思うが、

まさか50ノットとは、驚かされた。なお詳細なデータが公表されているIPS600(435馬力)2基仕様の場合、マックス3,540rpmで37.3ノット、燃費169.3L/h。クルージングスピード帯は2,500～3,250rpmで23.3～33.8ノット、燃費73.6～133.6L/hとなっている。

\*

「TRAGA 46」のその走りは、フラッグシップならではの質感と、アグレッシブな野性味の二面性を併せ持つ。気候条件の安定したフィンランドで建造されるハルはFRPの質がもともと高く、しかも真冬のバルト海でもボートを楽しむ国民性は極めて堅牢なハルを造り出した。その硬質なハルに870馬力のVOLVO PENTA D8 IPS800×2基という、走りを重視したマッチング。立ち上がりや高速安定性はもとより、高速時でもIPS特有

のタイトなターンが可能で、スロットルレバーを倒したままステアリングホイールを回すと、まるでランナバウトのように自然なインサイドバンクを伴いながら小気味よく旋回する。

パイロットハウスの中にもかかわらず46フィート艇を操船している感覚ではない。ウッドを多用した落ち着いた雰囲気、スカイライトハッチを備えた明るいロアヘルムステーション。エンジン音が極めて静かなため、高速走行中も楽に会話を楽しめる。どこまでもスムーズでシルキーな乗り味が心地よく、とても楽しい。ロアステーションで操船していても全開時にはかなりのスピード感だが、もっともアグレッシブに操船するのであればライブリッジをおすすめする。パイロットハウスの構造上、高速旋回時には左舷側がやや見にくくなってしまふからだ。ただし通常の旋回





であればまったく視界に問題はない。快適至極のグランドツアラーそのものである。

IPS800 仕様の公表最高速度は40ノットということだったが、フラットな水面でマックスまで上げるとGPS読みで41ノット平均で走行してくれた。以前、横浜で30フィートの「TARGA 30.1」に試乗した時も素晴らしいポテンシャルに舌を巻いたが、最新フラッグシップの「TRAGA 46」はさすがのものだ。

\*

パフォーマンスと乗り味の良さにばかり目が行ってしまいがちだが、TARGA 最大の魅力はインテリアにこそある。フィンランド伝統の木工技術によって仕上げられた重厚で品の良いサロンは素晴らしく、特にセールボートからの乗り換え派からも高い評価を受けている。フィンランドでも、長年セールボートを乗り継いできたオーナーがパワーボートに乗り換える際、TARGA を選ぶケースは多いそうだ。質実剛健な造りに、暖かみのあるウッドと落ち着いた配色のマテリアル、大人の雰囲気を出しているあたりが好まれている所以であろう。



デッキレイアウトはパイロットハウスを中央に配置したウォークアラウンド。パウデッキは1ステップ高く、緩やかなスロープを経て下り、ミジップより後ろはフルフラットだ。フライブリッジも含めデッキは総チーク貼り。ブルワークトップまで分厚いチークが奢られ、そのトリムには手の込んだラウンドカットが施されている。美しいチークデッキをさらに美しく魅せる、TARGA ならではの繊細な心配りだ。

防寒ブーツでも動きやすいようサイドデッキは十分に広く、パイロットハウスのヘルムステーション両舷にはスライドドア。従来、中型サイズの北欧ボートではサイドドアのみがポピュラーだったが、「TRAGA 46」はアフトにも総ガラスのスライドドアを備え機能性も居住性も大幅に向上している。またパイロットハウス後端には両舷にアフトコントロールステーション（IPS ジョイスティック）があり、どちらの舷でも楽に離着岸の操作が可能だ。少人数でもデッキワークが行いやすい、合理的でセーフティへの配慮に満ちた機装がなされている。

フライブリッジへのステップは、最下段がアフトコックピットのベンチ&ストレージを兼ね機能的。幅広のモールドでチークが敷かれ、女性や子供でも



家具職人がプライドを持って仕上げた重厚感溢れるサロンはどこまでも滑らかに上質。前モデルの「TARGA 44」は、2009年 MOTOR BOAT 誌のアワードで Wheelhouse & Walkaround 部門の「Boat of the Year」を受賞したモデルであり、ニューモデル「TARGA 46」ではそのクオリティをさらにブラッシュアップ。フォアとアフトに分けられた特徴的なキャビンレイアウトも TARGA のアイデンティティのひとつだ。





開放的なフライブリッジは後部に L字型ソファ、右舷前より独立したドライバーズシート、左舷にパセンジャーのためのベンチシートが並ぶ。安全なモールドステップも含め、総チーク張りのため素足でも心地良い。



安全に登ることができる。右舷に L字型ソファ&テーブルと、その前方にシングルシートのヘルムステーション、左舷前方がパセンジャーのためのベンチシートとなる。コンパクトでシンプル、使いやすいフライブリッジだ。

アフトデッキからパイロットハウスに入ると、すぐ左手にロアフロアへのステップがある。ここを降りるとアフトキャビン。フルビームのキャビンは左右に分割され、右にシングルベッド、左にダブルサイズベッドと独立したヘッドが配置される。サロンは右舷にカウンター、左舷にアップフロアのダイネッティを配置。ダイネッティの前面に 30 インチ TV が収納される。右舷のカウンターも充実している。フリーザーと冷蔵庫はもちろん、グリル、電子レンジ、ウォッシャーもビルトイン。上部にはスパイスボックスとペーパーホルダーまで整う。ほとんどフルキッチン域だ。

右舷前部のロアヘルムステーションはダンパー付きのシングルシート。左舷には3名でも掛けられるベンチシートが配され、さらに最前のウッドカウンターに隠されたステップを下ると、ダブルサイズのアイランドベッドが置かれたフォアキャビンへアクセスできる。サロンを含めれば8名程度のナイトステイが可能だ。

は8名程度のナイトステイが可能だ。

\*

四季を問わずに海を楽しむことができる、パイロットハウスを備えた北欧スタイルポート。木製のインテリアは工芸品のような仕上がりで、トラディショナルな雰囲気醸し出す。そして驚きのハイパフォーマンス。それはまさに「TARGA」らしい、事前の想定以上の上を行くフラッグシップだった。「TARGA 46」は年間15艇程度を建造予定という。北欧だけのものにしておくにはもったいない、フィンランド生まれの魅力的な46フッター、ぜひとも日本の海でも見てみたい。P.B.



アフトデッキには、フライブリッジへのステップを兼ねるベンチ&ストレージ。その前には折りたたみ式デッキテーブルもセットでき、素晴らしいピクニックスペースとなる。テーブルや折りたたみシート類は、エンジンルームのハッチ裏に収納可能だ。パイロットハウス後端の両舷にIPS ジョイスティックのアフトステーションが備わり、容易かつセーフティに離着岸が行える。

**TARGA 46**

- 全長 15.11 m
- 全幅 3.95 m
- 喫水 1.10 m
- 重量 12.00 ton
- エンジン 2x VOLVO PENTA D8 IPS800
- 最高出力 2x 870 HP
- 燃料タンク 1,500 L
- 清水タンク 350 L
- スピード Max 40 kt
- 問い合わせ先 ウィンクレル TEL: 045-681-0104
- www.wslc.co.jp/yacht/



YouTube